

# IPF 合併肺癌ガイドライン策定に関する研究

研究分担者 会長 伊達 洋至<sup>1</sup>、副会長 岸 一馬<sup>2</sup>

1 京都大学大学院医学研究科呼吸器外科教授 2 虎の門病院呼吸器センター部長

IPF は経過中、高率に肺癌を合併することが知られている。治療に際し問題になるのが、外科手術後の急性増悪、化学療法後の急性増悪・薬剤性肺炎、放射線療法後の放射線肺臓炎である。いずれも死亡率の高い合併症であり、実地臨床では、治療の選択に苦慮する場面が多く、適切な指針が求められている。そこで、本分科会では、将来のガイドライン作成に向け、外科療法、化学療法、放射線療法の現状を調査した。急性増悪発症率は、外科療法 9.3%、化学療法 13.1%、定位放射線療法 11.9%であった。しかしながら、症例の背景因子は異なるものと思われ、その解釈は慎重を要する。

## A. 研究目的

IPF は経過中、高率に肺癌を合併することが知られている。治療に際し問題になるのが、外科手術後の急性増悪、化学療法後の急性増悪・薬剤性肺炎、放射線療法後の放射線肺臓炎である。いずれも死亡率の高い合併症であり、実地臨床では、治療の選択に苦慮する場面が多く、適切な指針が求められている。そこで、本分科会では、将来のガイドライン作成に向け、外科療法、化学療法、放射線療法の現状を調査した。

## B. 研究方法

外科療法に関しては、日本呼吸器外科学会学術委員会がびまん班と協力し、術後急性増悪のリスク因子に関する後ろ向き研究を行った。化学療法に関しては、びまん班平成 23 年度研究報告書を参照した。放射線療法に関しては、ASTRO2013 報告を参照した。

## C. 研究結果

外科療法に関しては、1763 例の間質性肺炎合併肺癌手術症例が集積され、急性増悪発症が 9.3%、その死亡率が 43.9%であった。多変量解析の結果、男性、急性増悪の既往、術前ステ

ロイド使用、KL-6>1000U、% VC<80%、UIP pattern、区域切除以上の解剖学的切除の 7 つのリスク因子が同定された。

化学療法に関して、396 例の間質性肺炎合併肺癌に対する化学療法症例が蓄積された。52 例、13.1%に急性増悪が発症していた。使用されたレジメは、さまざまであり、最も多く使用された CBDCA+PTX は 140 例で急性増悪は 12 例、8.6%であった。現在、特発性間質性肺炎を合併した扁平上皮癌を除く非小細胞肺癌に対する CBDCA+PTX+Bevacizumab の忍容性試験を実施している。

放射線療法では、間質性肺炎合併肺癌 243 例に対する定位放射線療法の結果、Grade 3 以上の放射線肺臓炎が 11.9%に発症し、その 41%が死亡した。

## D. 考察

急性増悪発症率は、外科療法 9.3%、化学療法 13.1%、定位放射線療法 11.9%であった。しかしながら、症例の背景因子は異なるものと思われ、その解釈は慎重を要する

## E. 結論

急性増悪発症率は、外科療法、化学療法、定位照射線量療法で大きな差はなく、約 10% であった。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

1. Sato T, Teramukai S, Kondo H, Watanabe A, Ebina M, Kishi K, Fujii Y, Mitsudomi T, Yoshimura M, Maniwa T, Suzuki K, Kataoka K, Sugiyama Y, Kondo T, Date H; for the Japanese Association for Chest Surgery. Impact and predictors of acute exacerbation of interstitial lung diseases after pulmonary resection for lung cancer. *J Throat Cardiovasc Surg* 147 (5) :1604-11, 2014
2. Sato T, Kondo H, Watanabe A, Nakajima J, Niwa H, Horio H, Okami J, Okumura N, Sugio K, Teramukai S, Kishi K, Ebina M, Sugiyama Y, Kondo T, Date H. A simple risk scoring system for predicting acute exacerbation of interstitial pneumonia after pulmonary resection in lung cancer patients. *Gen Thorac Cardiovasc Surg* 2014 (Epub ahead of print)
3. Sato T, Watanabe A, Kondo H, Kanzaki M, Okubo K, Yokoi K, Matsumoto K, Marutsuka T, Shinohara H, Teramukai S, Kishi K, Ebina M, Sugiyama Y, Meinoshin O, Date H: Japanese Association for Chest Surgery. Long-term results and predictors of survival after surgical resection of patients with lung cancer and interstitial lung diseases. *J Thorac Cardiovasc Surg* 2014 (Epub ahead of print)

### 2. 学会発表

1. 94th Annual Meeting of American Association for Thoracic Surgery (April 26-30, Toronto) Long-term results after surgical treatment for 1,763 lung cancer patients with interstitial lung diseases – should it be done? Hiroshi Date, Toshihiko Sato, Satoshi Teramukai, Atsushi

Watanabe, Kazuma Kishi, Masahito Ebina, Yukihiro Sugiyama, Haruhiko Kondo, The Japanese Association for Chest Surgery.

2. 第 55 回日本肺癌学会総会（平成 26 年 11 月 14-16 日 京都）シンポジウム「肺がんの背景に見られる間質性肺炎をどう診断しマネージするか？」外科的立場から 伊達洋至、佐藤寿彦、手良向 聡、岸 一馬、海老名雅仁、近藤晴彦、渡辺 淳、杉山幸比古